

大吉原展 江戸アメイチング

東京藝術大学大学美術館(上野公園) 24.03.26~05.19



幕府公認の「遊郭江戸の吉原」は、広大な敷地に約250年もの長きに渡りに続いたもので、他の遊郭とは一戦を画す“格式と伝統”を備えた独特の場所であった。

この「吉原」では、洗練された教養や鍛え抜かれた芸事で客をもてなし、季節ごとの様々な催しが行われた。

文化発祥の中心地となった遊郭は、武士ばかりでなく多くの江戸庶民や地方から上京した人々も吉原見物に訪れ、その惹きつけた様子が「喜多川歌麿」らの浮世絵師によって描かれている。

本展は、今は失われた吉原遊郭における江戸の文化と芸術について、「ワズワース・アテネウム美術館」や「大英博物館」からの里帰り作品を含む、国内外の名品の数々を展示し、歴史的に検証をしてその全貌に迫る企画である。



喜多川歌麿《吉原の花》1793年頃
ワズワース・アテネウム美術館蔵



勝川春潮《吉原仲の町図》1785-95年頃
大英博物館蔵



《江戸風俗人形》 1981年
人形:辻村寿三郎 建物:三浦宏
小物細工:服部一郎
台東区立下町風俗資料館蔵

日本を代表する人形作家「辻村寿三郎」作「江戸風俗人形」が並ぶ、吉原の妓楼「三浦屋」の立体模型である。